

新しい一年が始まりました。
2023 年も、世界こども財団は、世界のこどもたちや青少年に支援が届くよう、職員一同尽力いたします。
本年もご支援のほど、何卒よろしくお願い致します。

SEISA Africa Asia Bridge 2022

開催報告

ちけい
知繫「知って繋がる」をテーマに掲げ、アフリカ・アジアの国際交流を目的とした星槎グループ最大のイベント「SEISA Africa Asia Bridge 2022（通称 SAAB：サブ）」が 2022 年 11 月 12 日（土）に開催されました。今回は、3 年ぶりにお客様を会場へ迎え入れ、そして、引き続き全プログラムをオンラインで繋ぐハイブリッド形式で実施しました。アフリカ・アジアを中心に 31 カ国以上、約 40,000 名の方々と一緒に学びと関わり合いの輪を広げることができました。

毎年進化し続け 8 回目を迎える SAAB、今年は 7 チャンネルを同時配信しました。知繫プロジェクト ch (4ch)「ブータン・エリトリア・ミャンマー文化交流」では、ミャンマーの日本語学校とオンラインで繋ぎ、現地の学生と交流を深めました。星槎で学ぶエリトリア、ブータンからの留学生に加え、2019 年にミャンマーより来日し、2022 年 3 月に星槎国際高校湘南を卒業したスー・ミヤット・ミヤット・ナインさんとカウ・カン・ウーさんも現地ミャンマーからオンラインで参加してくれました。本プログラムでは、星槎大学に在学中のエリトリア人留学生デジェンさんとブータン人留学生ペンジョさんが江ノ島や鎌倉の訪問についてまとめ、ミャンマーの学生に紹介してくれました。

また、星槎の創作和太鼓集団「打鼓音」による和太鼓の演奏と一緒に楽しむ場面もありました。星槎の留学生も初めて和太鼓に触れ、その力強く心地良いパワフルな音と響きに心を躍らせ演奏していました。

またスポーツ ch (5ch) では、SAAB 初の試みとなるチャリティーマラソン、『笑顔のタスキを「繋ごう」プロジェクト』を実施。中郡二宮町から横浜会場（星槎高校）までの約 50 キロの道のりを 6 人のランナーでタスキを繋ぎ完走しました。最後の走者は、エリトリアと日本の架け橋として活躍してくれている世界こども財団職員のケセテさんが務め、活気溢れる大声援の中、横浜会場のゴールテープを切りました。完走後には、「今こうして両国の架け橋として自分の使命を果たすことができているのは宮澤保夫前理事長のおかげです。心から感謝をしています。自分なりにできることを模索しこれからも自分の役割を果たしていきたいです。」と述べてくれました。

私たちが大切にしている「共生」の理念を様々な形で実現すべく、SAAB はこれからもあゆみ続けます。

(FGC 宮川翔太)



SAAB2022 に参加した留学生からのコメント

ペンジョさん

(星槎大学)

どの国にも独自の文化と伝統があるが、SAABを通じてその特別な感覚を私たちが互いに共有することができます。これが「知繋」だと思っています。

私は「知繋プロジェクト」で日本の寺院、神社について紹介しました。海外に住んでいる他の外国人に日本がどのように似ているかを示す絶好の機会でした。SAABを通じて互いを知り、コミュニケーションを図り学ぶことで、日常の物事についてより広い視点を持つようになりました。

デジェンさん

(星槎大学)

SAAB は多くの国々が参加し、互いを知り、思いやり、こうして繋がることができ、そしてみんなが楽しめるイベントです。このようなイベントが開催され、自分自身もとても嬉しく思います。

エセイさん

(星槎国際高校湘南)

SAAB ではアフリカの大使館の方々とお会いする機会をいただきました。日本の和太鼓も人生で初めて体験しました。とても楽しかったです。

ナズラウィさん

(星槎国際高校湘南)

新しい友達ができ、多くのことを学びました。特に和太鼓に触れ合えたことやバブ先生のお話を伺ったことが印象に残っています。バブ先生のこれまでの歩みを伺い、多くのことを学びました。

また、多くの国々の方々とお会いする機会があり、とてもワクワクしたのに加え、互いに自分たちの文化も共有することができました。日本のプロバスケットボールチームの方々と一緒に試合ができたこともとてもおもしろかったです。

ピニウムさん

(星槎国際高校湘南)

プログラムの内容がとても素晴らしかったです。アフリカやアジアの人々とも交流でき、和太鼓も体験することができました。とても楽しい一日になりました。ありがとうございました。

セナイさん

(星槎国際高校湘南)

知繋プロジェクトで体験した和太鼓が楽しかったです。日本語が理解できない場面も多々ありましたが、多くの国々の人たちと会うことができた良かったです。

セバさん

(星槎国際高校湘南)

和太鼓を楽しく演奏でき、バブ先生のお話もとてもおもしろかったです。友達もできました。SAABに参加でき、とても感謝しています。

アリアムさん

(星槎国際高校湘南)

とても楽しかったです。特に初めて和太鼓を体験することができ、良い経験になりました。ありがとうございました。



星浜祭に参加しました

2022年10月22日(土) 星槎国際高校浜松と地元の「サザンクロス商店街」とのコラボで開催された「星浜祭」にFGCも参加させていただきました。

今回FGC初の試みとして、エリトリアから留学し星槎道都大学を卒業し、現在はFGC職員として一緒に働いているケセさんのオリジナルレシピ「ケセのカレー」を提供しました。カレーは大好評で浜松のみなさんも喜んでいただきました。

星浜祭には、星槎国際高校湘南に所属するエリトリアからのスポーツ奨学生6名も参加し、「おいしいカレーはいかがですか?」と大きな声で呼びかけるなど、手伝いをしてくれました。地域の方との交流もあり、エリトリアについてたくさん質問をいただきました。留学生たちも日々の日本語学習の成果を最大限に発揮していました!

また、星浜祭にはFGCの招聘で打鼓音のみなさんも参加し、和太鼓の演奏で会場を盛り上げてくれました。会場には、

和太鼓の力強い音が商店街いっぱいに響き渡っていました。

浜松から世界こども財団の活動を支援してくださっている会員の皆様、星槎国際高校浜松の職員のみなさんや、生徒、保護者、そして地域の方々へ世界こども財団と留学生から直接、日ごろのご支援のお礼を言えた、またとない貴重な機会となりました。

世界こども財団は、今後も多くの方のご協力によって支えられながら、青少年の育成に邁進していきます。引き続き皆様からのご支援をよろしくお願いいたします。

(FGC 井上美智代)



カレーを調理するケセさん。
「ケセのカレー」大好評でした



日本語で接客に挑戦!
左からセバさん、ピニウムさん



留学生ナズラウィさんも久しぶりのエリトリアの味に舌鼓



打鼓音の演奏が会場を盛り上げます!



2022年エリトリア陸上合宿報告

星槎大学4年生のデジェンです。2022年夏、エリトリアのアスマラで陸上合宿を行わせてもらいました。今日はその報告とご挨拶をさせていただきます。

最初に、エリトリアのアスマラ空港に到着した後、友達が迎えに来てくれました。とても嬉しかったです。翌日には、陸上選手の仲間たちと出会い、僕は、もちろん、みんなとても喜んでくれました。そして、エリトリアの世界選手権代表の選手達ともスムーズにコミュニケーションをとりながら競技場で練習を行うことができました。

エリトリアの夏は、日本の夏に比べて湿度も高くなく、気温も安定しているので、落ち着いて練習に取り組むことができます。練習をする場所も以前練習していた場所なので使い勝手が分かるので、毎朝早起きしてエリトリアの選手たちと一緒に集合して、久々に合同練習することができてとても嬉しかったです。

日本では、いつも一人で練習をしているので、それに比べて、合宿をすることでモチベーションも高くなり、最高のトレーニングがすることができて大変よかったと思っています。自分と異なる種目の選手と一緒に合宿をすることも共生の一部ではないかと思いながら練習を行ってきました。とても良い経験になったと改めて実感しています。

また、今夏のエリトリア合宿は、コロナ禍でできなかった期間が2年半もあったため、久しぶりの長期合宿にもなりました。

合宿を通じ人との繋がり大切さを学ぶ機会にもなりました。

標高の高いアスマラで、そして、トラック練習だけでなく、色々な場所でもトレーニングができました。エリトリアでは、長い距離を何も気にせず走れる長距離選手にとって最高のソフトグラウンドやクロスカントリー等の足に負担をかけない練習場が沢山あります。

練習終了後、陸上選手皆で集合して、その後、アスマラの地元企業から選手実業団のように面倒を見てくださっている方からの支援で週3回レストランに行き食事をすることができました。合宿滞在中、色々な問題や苦難もありました。ですが、こういった地元企業の応援やサポートもあり解決することができて大変良かったです。

私は、日本に来て6年になりますが、世界こども財団(FGC)や星槎グループをご支援頂く皆さんの支えを決して忘れてはいけないと思っています。皆さんのサポートがあるからこそ、私も、後輩留学生達も、日本で生活することができています。そして、陸上競技や学習することが出来てとても嬉しいです。

特に宮澤保夫前理事長の共感・思いやり・私達に対する親切さにも本当に心より感謝を申し上げます。そして、FGC ニュースレターを読まれている読者の方々、一人ひとりの温かいご支援、ご声援、ご理解のおかげです。ありがとうございます。引き続き、何卒よろしくお願い申し上げます。

デジェン・テスファレム・ウェルドゥ(星槎大学)



2022年12月14日 世界こども財団 活動報告会を開催しました

世界こども財団の活動報告会を、箱根の湯本富士屋ホテルで開催しました。

当日は法人会員、協力企業のみなさまを中心に約 60 名での会となり、世界こども財団の活動についてご紹介したほか、土屋恵三郎理事長、勝保伸理事からもご挨拶をしました。また、支援企業を代表して、サッカー界のレジェンドである奥寺康彦様が、世界こども財団や星様、そして宮澤保夫前理事長との長いご関係についてお話しくださいました。

留学生もそれぞれ、日本語で感謝の気持ちを伝えました。留学生紹介の司会はケセテさんが担当しました。

改めて、私たちの活動が本当に多くの方々を支えられているこ

とを実感できた活動報告会でした。

今回は法人、団体のみなさま中心のご招待でしたので、個人会員の方々にはご参加いただけませんが、今後オンライン等も活用しながら、引き続き活動について知っていただく機会をつくってきたいと思います。



Softbank「つながる募金」はじめました!

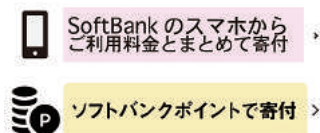
世界こども財団 (FGC) では、寄付をもっとやりやすく、そして、寄付文化をより身近にしていけるため、スマホや PC から簡単に寄付ができる「つながる募金」をはじめました。

「つながる募金」とは、ソフトバンクの iPhone、スマートフォンをご利用の場合、携帯電話利用料と一緒にまとめて寄付ができるサービスです。

「つながる募金」の 1 つの特徴は、ソフトバンクポイントでも寄付をしていただけるサービスとなっています。

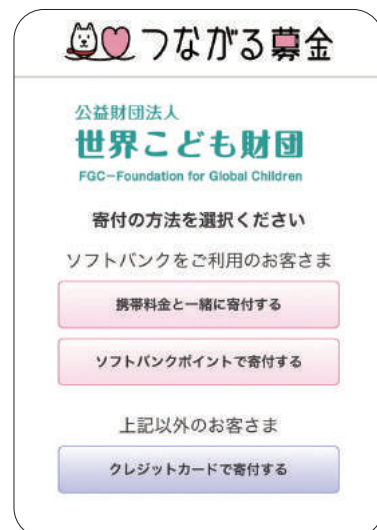
ソフトバンクのスマートフォン以外をご利用の場合は、クレジットカードや Yahoo! ネット募金での寄付も可能になっています※1。

また、「毎月継続寄付」のチェックを外すと一回限りの寄付をお選び頂くこともできます。



※1 ソフトバンクのスマートフォン以外をご利用の場合、クレジットカードでのお支払いとなるため、クレジットカード番号などの入力が必要です。

ソフトバンクのスマートフォン以外は、継続期間を 1 カ月 (1 回)、3 カ月、6 カ月、12 カ月から選択することができます。また、寄付期間を選択して寄付されている場合、途中で寄付の停止や寄付期間の変更はできません。ソフトバンクポイントでお支払いの場合は都度寄付のみとなります。



参考) 携帯画面

事務局より

「FGCメルマガ」の配信がスタートしました!

2022 年 11 月より「FGC メールマガジン (FGC メルマガ)」の配信を開始しました。

世界こども財団の活動につきましては、これまで「FGC ニュース」やホームページ、SNS 等でお知らせをしてきましたが、より多くの方へ、よりタイムリーに世界こども財団の活動を知っていただける

よう、情報を配信していきます。ぜひ、メルマガをご購読ください!

■配信登録について

メールマガジンを購読いただける場合は、QR コードを読み取っていただくか、下記 URL より登録をお願いいたします。

メールアドレス、ご氏名を入力いただくことで簡単に登録ができ、購読の停止もいつでも可能です。

FGC メルマガでは、FGC の活動やイベントのお知らせ、留学生の日々の様子などもお伝えしていきます。

スマートフォン



パソコン

<https://b.bme.jp/bm/p/f/ff.php?id=bm73578jx&task=regist>



2023 年 1 月発行

公益財団法人
世界こども財団

〒259-0111 神奈川県中郡大磯町国府本郷 1805-2 (星様グループ内)
TEL. 0463-74-5359 FAX. 0463-74-5374 E-mail: fgc@fgc.or.jp
ホームページ: <http://www.fgc.or.jp> Facebook: 「世界こども財団」で検索!
印刷: 株式会社 Kurikindi Design 制作: 岡村直実 (JC ユニット)

